



シルクスクリーン/ヌートカ
Art Thompson (1936) (北海道立北方民族博物館蔵)



PEOPLES OF TOTEM POLES AND SALMONS

2000・7・18(火)▶9・24(日)

休館日 月曜日

開館時間 9:30~16:30

特別展 一般 300円(240円)

観覧料 高校生・大学生 100円(80円)

小学生・中学生 50円(30円)

()内は10名以上の団体料金

第15回特別展

トータルポールとサケの人びと

北西海岸インディアンの森と海の世界



 **北海道立北方民族博物館**
Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)
TEL 0152-45-3888 / FAX 0152-45-3889 / E-MAIL hoppohm@ohotoku26.or.jp

北アメリカ・北西海岸は、高緯度のわりに温暖な気温と多量の雨によって巨大な針葉樹の森林が発達し、陸地深くまで入り込む湾とたくさんの島々によって、複雑に入り組んだ森と海の世界が形作られています。

北西海岸インディアンと総称される人びとは、この地の豊かな自然環境を背景に、独自の文化を育んできました。本特別展では森と海の恵みを巧みに利用した生活様式、特異な精神文化、現代に息づく伝統について紹介します。



オヒョウ用釣針／ヌートカ(北海道開拓記念館蔵)

海と川の世界

北西海岸インディアンは、食物の大部分を海や川の資源に依存していました。小型の海獣類を対象とした狩猟は広くおこなわれ、一部地域では捕鯨もみられました。オヒョウやタラなどの大型の魚は、U字型やV字型の釣針で釣りあげられ、ニシンやユーラコン（キュウリウオ科）、5種のサケ類などは、網や籾、籠わなで捕獲されました。特に季節的に回帰するサケ類は重要で、大量に捕獲されて乾燥・燻煙加工され、冬の重要な食物になっていました。



バスケット／トリンギット(国立民族学博物館蔵)

森の世界

北西海岸インディアンは樹木、特にシーダー類を幅広い用途に使用していました。木の伐採や木材加工の技術に優れ、家やカヌー、調理具、食器など、生活に必要なものの多くが木で製作されました。また、シーダーの内皮やスプールの根を細かく裂いて編み上げ、敷物や籠、帽子、衣服までが木で作られました。



カヌー模型／トリンギット(国立民族学博物館蔵)



ガラガラ／トリンギット(国立民族学博物館蔵)

儀礼とトーテムポール

こうした豊富な食物資源に支えられ、北西海岸インディアンには貴族、平民、奴隷といった社会階層がみられました。冬には貴族たちが蓄えられた富を分配する祭宴を催し、仮面や衣装で精霊に扮した人びとによって踊りや演劇が上演されました。

儀礼に伴って建立されたのが、その大きさと特異な彫刻で知られるトーテムポールです。表面の彫刻は、集団の由来を示す神話などを表現したもので、刻まれた動物や人物は個人や集団の紋章としての役割を果たしていました。



チルカット・ローブ／トリンギット(北海道立北方民族博物館蔵)

伝統と現代

北西海岸インディアンは、伝統的な生活のなかで精緻な彫刻やバスケット製作の技術を発達させ、また動物やさまざまな自然現象を象徴化した独特のデザインを作り出してきました。

こうした技術やデザインは現代にも受け継がれ、彫刻、バスケット、シルクスクリーンなど、工芸品や美術として今日も新たな作品が産み出されています。